

国際医療福祉大学大学院

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE GRADUATE SCHOOL

GUIDEBOOK

作業療法学分野

医療福祉学研究科

- 修士課程 保健医療学専攻
- 博士課程 保健医療学専攻



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

分野責任者ごあいさつ



作業療法学分野責任者

谷口 敬道

経歴

作業療法士。工学博士。国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院卒業。東京理科大学、日本大学大学院理工学研究科医療・福祉工学専攻博士課程修了。社会福祉法人重症心身障害児施設毛呂病院児の家の臨床経験を経て、1993年財団法人国際医療福祉大学設立準備室に入職。本学の創設に参画し現職。専門は小児作業療法学。重度の障害児の療育から通常学級・支援学級、特別支援学校における特別支援教育など幅広く活躍。

貴方の『臨床疑問』を『研究疑問』へ

作業療法学分野では、充実したゼミ時間の確保により皆さんの臨床疑問を研究できる形に発展させます。自ら立案した研究計画に基づいて成果を確認する過程は作業療法士の専門性を高めることに役立ちます。

本分野には、実にさまざまな領域で活躍される作業療法士の方々が集います。その皆さんの実践における臨床疑問を、研究できる形の研究疑問に育て、実際に研究できる形にするプロセスはとてもエキサイティングです。研究活動を通して自分の臨床を振り返り、論理的思考を高めましょう。また、教育機関に所属する皆さんとは、学生の豊かな人間性を大切にする教育者をめざして研究を進めたいと思います。

本分野で身につくりテラシー

- 日常の問い合わせや疑問を、研究可能な疑問として系統的な探索を通じて解決するための「論理的問題解決技術」
- 先行文献を系統的に検索して、必要な文献を見つけて、内容を批判的に正しく理解するための「文献検索・読解技術」
- 量的データを、統計解析ソフトウェア (SPSS や R 等) を使用して、正しく処理し分析するための「量的データ処理技術」
- 質的データを、コーディングやソフトウェア (Nvivo や SCAT 等) によって、正しく処理し分析するための「質的データ処理技術」
- 研究成果を論理的かつ魅力的に報告するための「プレゼンテーション技術」

分野の特長

■ 作業活動支援学領域

作業療法の実践を支える理論、すなわち損なわれた精神と身体に対して作業活動を提供する意味を説明する諸理論を歴史的に考慮し、作業療法の原理を探ります。また、精神や身体が損なわれることによって生じる作業行動の障害を分類しその体系を考察します。これらの体系を通じて、作業（作業活動）を臨床的に応用する適用水準について考察を深めます。

■ 作業活動分析学領域

人の日常生活や社会生活の基盤となる作業活動とその遂行を科学的にとらえる方法論を学び、作業療法の実践に寄与する研究法を探索します。作業療法学分野には脳機能計測装置として近赤外分光法 (NIRS: near-infrared spectroscopy)、脳波による事象関連電位 (ERP: event-related potential) などの設備も充実しています。



ゼミの様子



研究指導の様子

分野・領域内での定期的なゼミ開催のほか、分野内の研究進捗報告会を年4回、また大学院全体の研究報告会が学年ごとに年1回開催されており、研究について自分分野のみならず、他分野・他領域の院生や教員から意見をもらう機会が多くあります。

■ 教育内容のご相談

谷口 敬道 教授 (taniguchi@ihwg.jp)

■ 学校生活のご相談

国際医療福祉大学大学院 東京赤坂キャンパス事務局
TEL:03-5574-3900 Mail:tokyo.s.c@ihwg.jp

■ 入試に関するご相談

国際医療福祉大学 東京赤坂キャンパス入試事務室
TEL:03-5574-3903 Mail:daigakuin-nyushi@ihwg.jp

詳細は国際医療福祉大学大学院のホームページをご覧ください

国際医療福祉大学大学院

検索

修士課程・博士課程 コア科目

作業活動支援学領域科目

修士課程

- 作業活動支援学講義 I・II
- 作業活動支援学演習 I・II
- 作業活動支援学研究指導 I～IV

博士課程

- 作業活動支援学講義・演習
- 作業活動支援学研究指導 I～III

作業活動分析学領域科目

修士課程

- 作業活動分析学講義 I・II
- 作業活動分析学演習 I・II
- 作業活動分析学研究指導 I～IV

博士課程

- 作業活動分析学講義・演習
- 作業活動分析学研究指導 I～III

選択科目 他

■ 教育学概論 I・II

※新指定規則（2020年度施行）では、教員要件として5年以上業務に従事したもので、厚労省が指定した専任教員養成講習会を修了した者と見直しています。ただし、大学又は大学院において4単位以上の教育に関する科目を履修して卒業した者は、5年又は3年以上業務に従事していれば専任教員になることができるとしています。※本大学院では、教育に関する科目を履修して卒業することができます。

■ 修士課程・博士課程のための研究法入門

- 統計学
- 質的研究法概論・各論
- がん医療総論・各論
- PT・OTのための画像診断
- 最新の医療福祉の動向 I・II

他多数

eラーニングやオンラインおよび各キャンパスを遠隔システムで繋いだ学修展開が魅力！

先輩からのメッセージ (勤務先は取材当時)

渡部 誠一さん 博士課程修了／那須高原病院 勤務

博士課程には修士課程で新たに生まれた疑問を解決したいと考えて進学しました。また博士課程で求められる新規性、つまり研究として世界で明らかになっていない部分を自身が証明することに挑戦するつもりで進みました。本学の魅力は、様々な分野の作業療法士が集い院生として自らが興味のある分野や事象について探求することを作業療法学分野の先生方だけではなく他分野の先生方も励行し、惜しみなく指導してくれる点であると思います。そうした環境のなかで先生や院生間で議論をし、自分の臨床、研究、論文に向き合い、自分の生活にも向き合い、研究だけではなく物事を俯瞰した見方をできるようになる機会が得られることも大きな魅力だと思います。

魚岸 実弦さん 博士課程修了／メンタルホスピタルかまくら山 勤務

他校の修士課程において、精神保健福祉領域のピアサポートに関する研究に取り組みました。その研究によって新たな課題が明らかになり、博士課程に進学し、研究を継続したいと強く思っていました。学生としての最後は母校でという気持ちがあり、ご縁を頂けることになりました。研究をするにあたり、幅広い見識を備えた先生方の存在や、働きながら通学しやすい環境も決め手でした。大学院を目指す皆様のなかには、仕事やご家庭を持たれている方々が少なくないのではないでしょうか。本学は夜間の授業が主体であり、オンライン環境も整備されています。また、自宅のパソコンからの講義受講も可能であり、文献検索もお手元のスマートフォンやパソコンから行えます。そして、共に学ぶ院生の数も多く、互いに研鑽し合える環境が魅力です。

小松 謙さん 修士課程修了（作業療法学分野作業活動支援学領域）／成田リハビリテーション病院 勤務

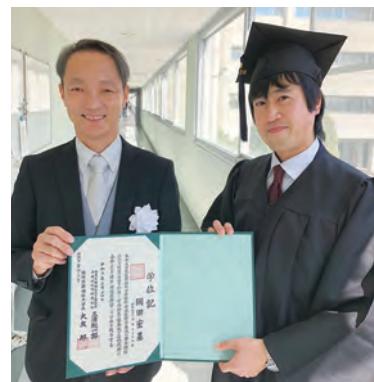
職場の先輩が本学の修了生であり、今後のキャリアアップや臨床の質を向上させたいと考え、臨床3年目の時に進学しました。指導教員は大田原キャンパスでしたが、オンラインやメールでの研究指導はとても丁寧で、安心して研究を進めることができました。臨床業務との両立は大変ですが、授業や研究指導では今まで知らなかった分野の知識や作業療法の考えを学ぶことができます。教員や院生同士とのディスカッションにより、自分の考えや新しい視点に気づくことができます。他キャンパスの院生同士と繋がることで人脈を広げることができるのも本学の魅力であると思います。また、修士課程修了後も取り組んだ研究を国際学会で発表するために指導していただき、貴重な経験となりました。大学院での学びは自身を成長させ、作業療法士としての自信に繋がると思います。

岩本 凌さん 修士課程修了（作業療法学分野作業活動分析学領域）／北九州リハビリテーション学院 勤務

臨床1年目から研究に触れ合う機会があり、研究に興味を持っていました。今回しっかりと研究について学び、形にしたいと思い大学院への進学を決めました。大学院での学びは、研究を通して、様々な知識を修得することができるため、作業療法士としてのスキルアップが図れることも動機の一つでした。本学の魅力は、指導教員の先生だけでなく、様々な分野に精通した先生方から多くのご助言がいただけることだと思います。また、オンライン環境が整っていることも魅力の一つです。業務の都合に合わせて、時間を設けてくださりご指導いただきました。院生の数が多く、互いに意見を交換しながら研究をブラッシュアップしていくことができました。研究は敷居が高い印象を持たれがちですが、自身の臨床で見つかる疑問を明確にして内容を吟味していくことは、作業療法士として成長するためには必要な過程である感じています。本学では、指導を受けながら研究について深く理解し、大きく成長することができた貴重な時間であったと思います。

鈴木 駿太さん 修士課程修了／国際医療福祉大学病院 勤務

大学病院での臨床3年目を迎えて、経験を積むなかで持った疑問や主観的な印象を研究という形にして検証する方法を学びたいと考えました。職場が本学関連施設という事もあり、上司の理解もあったため、挑戦してみたいと思いました。働きながら大学院に通うことに指導教員の理解もありました。指導日を院生に合わせてくれる事、オンラインを使用して進捗状況の報告を業務後の遅い時間等にも設定してくれること等、多くの先生方が院生の都合に合わせて指導をして頂きました。そのため、業務を優先しながらも大学院での勉学を継続することができます。



国際医療福祉大学大学院

保健・医療・福祉専門職のキャリアアップを支援

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい本学大学院の特長

全国7都市（栃木県大田原市・千葉県成田市・東京都港区・神奈川県小田原市・静岡県熱海市・福岡県福岡市・福岡県大川市）にキャンパスを展開する国際医療福祉大学大学院は、平日の夕方以降や土日祝日に授業を集めしたカリキュラムとさまざまなICT教育ツールにより、全国の社会人の学びを支援しています。

ICT 教育ツール

- 自宅など、どこからでも手軽に授業や研究指導を受けられる、
Webコミュニケーションツール
- 通勤・休憩時間など、いつでもどこでも自分の都合に合わせて学修できる、
eラーニングシステム
- 多数のコンテンツで保健・医療・福祉を幅広く学べる、VODライブラリー



医療福祉学研究科

修士課程

保健医療学専攻

- 看護学分野
- 特定行為看護師養成分野
(旧:ナースプラクティショナー養成分野)
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉教育・管理分野

臨床検査学分野

- 災害医療分野
- 遺伝カウンセリング分野
- 医療機器イノベーション分野

医療福祉経営専攻

- 医療経営管理分野
- 診療情報アナリスト養成分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 医療通訳・国際医療マネジメント分野

臨床心理学専攻

博士課程

保健医療学専攻

- 看護学分野
- 助産学分野
- 理学療法学分野
- 作業療法学分野
- 言語聴覚分野
- 視機能療法学分野
- 福祉支援工学分野
- リハビリテーション学分野
- 放射線・情報科学分野
- 生殖補助医療胚培養分野
- 医療福祉教育・管理分野
- 臨床検査学分野
- 災害医療分野

- 医療遺伝学分野
- 医療福祉経営学分野
- 診療情報管理・分析学分野
- 医療福祉国際協力学分野
- 先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
- 医療福祉学分野
- 医療福祉ジャーナリズム分野
- 臨床心理学分野

薬学研究科

博士課程（4年制）

医療・生命薬学専攻

医学研究科

博士課程

医学専攻

- 基礎医学研究分野
- 臨床医学研究分野
- 社会医学研究分野

薬科学研究科

修士課程（2年制）

生命薬科学専攻

- 生命薬学分野
- 医療薬学分野

専門職学位課程

公衆衛生学専攻

- 国際保健・感染症学分野
- 疫学・社会予防医学分野
- 医療福祉政策・管理学分野

大学院に関するお問い合わせ

東京赤坂キャンパス事務部 Tel : 03-5574-3900 〒107-8402 東京都港区赤坂4-1-26

学生募集要項は次のいずれかの方法でご請求ください

Tel 03-5574-3903 E-mail daigakuin-nyushi@iuhw.ac.jp HP <https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/>

国際医療福祉大学

- 大田原キャンパス
- 成田キャンパス
- 東京赤坂キャンパス
- 小田原キャンパス
- 大川キャンパス

国際医療福祉大学附属病院

- 国際医療福祉大学病院（栃木県）
- 国際医療福祉大学塩谷病院（栃木県）
- 国際医療福祉大学成田病院（千葉県）
- 国際医療福祉大学市川病院（千葉県）
- 国際医療福祉大学三田病院（東京都）
- 国際医療福祉大学熱海病院（静岡県）